

I. アンケート調査の実施概要

1. 調査の概要

(1) 目的

周南市では、まちづくり総合計画に基づいて市政の運営を行っています。

現行のまちづくり総合計画の計画期間は、平成17年度から10年間で、26年度末で終了するため、27年度からの次期計画の策定を進めています。

このアンケート調査は、次期計画策定の基礎資料とするため、市民の皆さんのニーズや満足度、考えなどを伺うために実施しました。

(2) 対象・方法

平成25年5月1日現在、市内に在住する18歳以上の方の中から、2,500人を無作為に抽出し、無記名による調査。調査票は、郵送で配布・回収しました。

併せて、市ホームページで、WEB(インターネット)回答による調査を実施しました。

(3) 実施期間

平成25年5月17日発送～31日締め(最終回収：6月25日)

(4) 配布数・回収状況

回収率は、43.8%で、前回調査(47.1%)より3.3ポイント下回っています。

地域	該当地域(小学校区)	配布数 (件)	回収数 (件)	WEB回答 (件)	回収率 (%)
都市地域	徳山・遠石・今宿・周陽・岐山・ 秋月・桜木・久米・櫛浜・富田 東・富田西・福川・福川南	1,698	700	25	41.2
都市周辺地域	鼓南・菊川・四熊・小畑・夜市・ 湯野・戸田・勝間・大河内	605	231	4	38.2
中山間地域	大道理・大向・長穂・沼城・中 須・須磨・大津島・和田・三丘・ 高水・八代・鹿野	197	136	3	69.0
無回答		—	28	—	—
合計		2,500	1,095	32	43.8

〔調査結果利用上の注意〕

- ・ 属性(設問1～6)の無回答や端数処理により、各項目の合計欄が一致しない場合があります。また、複数回答の質問では、回答比率の合計が、100%と一致しません。
- ・ WEB回答分は、選択肢1つを選ぶ形式の設問に対し、単純集計のみ加算しています。
 - ※ 集計の関係上、WEB回答分(32件)を含まない項目があります。
- ・ 数表や図表中の「—」は、該当する選択肢の回答がないことを示します。
- ・ 数表や図表は、文言を省略している場合があります。

【参考】アンケートの配布票数及び誤差について

■ 配布数の設定

統計学的には、対象となる範囲の方の性別・年齢・職業・居住地などをバランスよく抽出してアンケート調査を行い、有効回答がおおむね1,000票となれば、その結果は対象となる範囲の大小に係わらず変わらないとされています。

今回のアンケート調査においても、おおむね1,000票の有効回答を目標に、これまでの調査結果から回収率を40%程度と想定し、配布数(対象者数)を2,500票としました。

■ 回収票数と誤差

今回の回答数1,095票を、下記の式に入れて逆算すると、誤差は3.0%(≒2.96)となります。

これは、違う人を対象に、同じ調査を100回行った場合でも有意水準5%であるから、95回は、その結果が±3.0%以内であるということです。

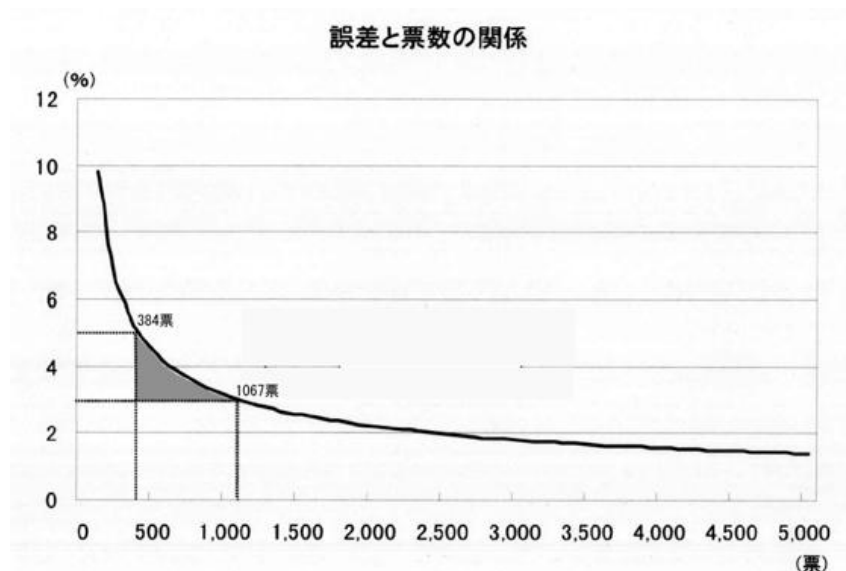
■ アンケートの回収票の信頼性

アンケート票数と誤差との関係は、票数が少ないと誤差は大きく、多いと少なくなりますが、その関係は一定でなく、富士山の稜線のカーブのような関係にあります。【下図参照】

つまり、票数が少ない時は、票数を少し増やすことにより誤差が大幅に減少しますが、ある一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなります。

統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差:3~5%以内であればよいとされており、それを下記の計算式で逆算すると、概ね400~1,100票程度であることが算出されています。

つまり、有効回答票の回収数がこの程度あれば、意向の把握として納得できる数字になるといえます。



《参考》 サンプル数 (アンケートの有効回答票数) と誤差との関係式

$$\text{必要なサンプル数} = (\text{有意水準}^2 \times P(1-P)) \div \text{目標誤差}^2$$

有意水準: 統計学の「正規分布表」から有意水準 5%の定数 (=1.96)

P: 誤差が一番大きくなるのは、50%であるため「0.5」

目標誤差: 3~5%以内であればよいとされている